

「福井県文化振興プラン（仮称）」策定に向けた意見交換・アンケート等の結果概要

対象 [参加者・回答者数]	福井ゆかりのアーティスト（音楽分野） [10名]	福井県文化協議会加盟団体 [26団体]	県内市町の文化振興担当職員 [16市町]																																																												
1.活動の中で感じる課題	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術に触れる機会が限られている 文化芸術に興味を持っている県民が少ない 音楽的に新しい試みをしたとしても県内では反応が薄い 若手育成の広い間口がない 演奏以外の要素（演奏を聞いた後の会話や食事など）を楽しめるような街づくりが必要 練習場所や演奏会場を確保するための手続きが煩雑 新しい知識を得るための勉強の機会が少ない 演奏料などの条件面の交渉が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 会員が高齢化し、減少している 資金面で会の運営が困難になっている 発表できる会場が少ない（ほとんどない） 発表の場、練習の場の確保が難しい（美術館、ハーモニーホール等の予約がとれない） 子どものときに習い事で活動している人は一定数いても、社会人の活動につながらない 	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化とそれに伴う後継者・担い手不足、また人手不足による活動の停滞 文化財の老朽化、資材費の高騰等に伴う維持補修費の増大、資金不足 地域住民（特に若年層）の文化に対する意識の希薄化 																																																												
2.必要な行政からの支援	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選択肢</th> <th>回答数（人）</th> <th>割合（%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表の場の確保</td> <td>7</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>資金面での支援</td> <td>7</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>活動のPR、情報発信の支援</td> <td>6</td> <td>60.0</td> </tr> <tr> <td>連携・協働の場でのマッチング</td> <td>5</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>技術向上、ノウハウ習得などの機会提供</td> <td>4</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>練習の場の確保</td> <td>3</td> <td>30.0</td> </tr> <tr> <td>プロデューサーの紹介など事業企画の支援</td> <td>2</td> <td>20.0</td> </tr> <tr> <td>特にない</td> <td>1</td> <td>10.0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>10.0</td> </tr> </tbody> </table>	選択肢	回答数（人）	割合（%）	発表の場の確保	7	70.0	資金面での支援	7	70.0	活動のPR、情報発信の支援	6	60.0	連携・協働の場でのマッチング	5	50.0	技術向上、ノウハウ習得などの機会提供	4	40.0	練習の場の確保	3	30.0	プロデューサーの紹介など事業企画の支援	2	20.0	特にない	1	10.0	その他	1	10.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選択肢</th> <th>回答数（人）</th> <th>割合（%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表の場の確保</td> <td>21</td> <td>80.8</td> </tr> <tr> <td>資金面での支援</td> <td>18</td> <td>69.2</td> </tr> <tr> <td>活動のPR、情報発信の支援</td> <td>9</td> <td>34.6</td> </tr> <tr> <td>連携・協働の場でのマッチング</td> <td>4</td> <td>15.4</td> </tr> <tr> <td>技術向上、ノウハウ習得などの機会提供</td> <td>24</td> <td>92.3</td> </tr> <tr> <td>練習の場の確保</td> <td>8</td> <td>30.8</td> </tr> <tr> <td>プロデューサーの紹介など事業企画の支援</td> <td>3</td> <td>11.5</td> </tr> <tr> <td>特にない</td> <td>1</td> <td>3.8</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2</td> <td>7.7</td> </tr> </tbody> </table>	選択肢	回答数（人）	割合（%）	発表の場の確保	21	80.8	資金面での支援	18	69.2	活動のPR、情報発信の支援	9	34.6	連携・協働の場でのマッチング	4	15.4	技術向上、ノウハウ習得などの機会提供	24	92.3	練習の場の確保	8	30.8	プロデューサーの紹介など事業企画の支援	3	11.5	特にない	1	3.8	その他	2	7.7	—
選択肢	回答数（人）	割合（%）																																																													
発表の場の確保	7	70.0																																																													
資金面での支援	7	70.0																																																													
活動のPR、情報発信の支援	6	60.0																																																													
連携・協働の場でのマッチング	5	50.0																																																													
技術向上、ノウハウ習得などの機会提供	4	40.0																																																													
練習の場の確保	3	30.0																																																													
プロデューサーの紹介など事業企画の支援	2	20.0																																																													
特にない	1	10.0																																																													
その他	1	10.0																																																													
選択肢	回答数（人）	割合（%）																																																													
発表の場の確保	21	80.8																																																													
資金面での支援	18	69.2																																																													
活動のPR、情報発信の支援	9	34.6																																																													
連携・協働の場でのマッチング	4	15.4																																																													
技術向上、ノウハウ習得などの機会提供	24	92.3																																																													
練習の場の確保	8	30.8																																																													
プロデューサーの紹介など事業企画の支援	3	11.5																																																													
特にない	1	3.8																																																													
その他	2	7.7																																																													
3.必要な支援の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな分野のアーティストとの交流の場づくり 企業や地域、自治体などとの連携や協働に対する支援 子どもたちが文化芸術に触れる機会を確保するためのアウトリーチ活動への支援 行政の事業に、企画段階からアーティストが参加できる仕組みの構築 公の場所（美術館や博物館）における演奏できる環境の整備 練習、演奏場所の確保を容易にするための、施設の予約方法等の改善 演奏料のルール（最低賃金のようなもの）の設定 アーティスト個人ではできない学校や公的施設でのチラシ配布のようなPRの支援 行政が世界的な新しい文化の傾向に対して理解を深めること 	<ul style="list-style-type: none"> 利用しやすい展示施設（美術館）の整備 発表場所、練習場所の確保への支援（県立美術館や各地の公民館を利用する際の助成、優先利用） 文化活動を支援する専門職員を県に設置 様々な文化芸術団体と合同で行う「ふくい文化の祭典」のような発表の場（催し）の企画 子どもたちが伝統芸能に触れる機会の確保（教育機関との連携） 従来をブラッシュアップする際などの、他機関や他団体との連携・マッチング 伝統文化を学ぶ留学生への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 補助金、金銭的支援 県内の総合的な情報発信および調整 二次交通の改善 観光客受け入れ体制整備（駐車場、トイレ、休憩所、ボランティアガイド等）に対する支援 指定文化財以外の文化資源に対する支援 補助金に頼らず、地元の人イベントを開催できるノウハウの提供 																																																												
4.プラン骨子案について（意見・要望）	<ul style="list-style-type: none"> プランの全体像はわかったが、特にどこに力を入れて取り組んでいくのかが見えない。 行政間の横のつながりを考えていくと、より全体がもりあがるのではないかと思う。 県民が文化芸術に触れる機会を増やすための無料コンサートなどを開催しても、人が集まらないことがあった。情報発信の方法なども工夫していく必要がある。 アーティストの育成には時間がかかるので、今スタートする事業で計画期間に成果を出すことは難しい。これまで行ってきた取組みも上手く活かすかたちで計画に取り込んでほしい。 プロを目指すかどうか迷っているような、中案層の若手の受け皿となる取組みが必要。 企業とアーティストのコラボ実現に向けて、公的支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化振興の一端を担う文化団体への支援を拡充してほしい。 特に若年層に対する文化普及活動の充実を期待する。 一度限りのイベントでなく、県民すべての人達が参加しやすい楽しめる継続した催しの開催を希望する。 伝統芸能は難しい、敷居が高いと能楽を敬遠されがちだが、いろいろな方面からアプローチできる文化として、教育面でも取り上げてもらえるとういと思う。 「文化芸術」と「文化財」の認識が市町、担当者（特に学芸員）によって異なり、文化とひとくくりになされても何を対象としているのか、どの範囲までなのかわかりにくい。 国の振興策は都会向けであり、高度な芸術向けが多いので、本県の特性にあった丁度いい振興策を期待している。 地域の伝統芸能や祭りも、少子化の影響を受けて継続が困難な状態。そのことを考えてプランを策定してほしい。 2024年春には、北陸新幹線も福井・敦賀まで開業され、人の流れも変わっていくので、この好機に、福井県の文化芸術振興を図るべき一投を投じるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 人材の確保・育成 プレイヤーの高齢化により活動内容が限定、新規事業の立ち上げが困難 外部人材からのアドバイス、先進事例の説明会、観光ボランティア向け研修 活発に活動する個人はいるが、団体に発展しない 地域プレイヤーやその家族への負担が大きい観光と文化を一体的に捉えた政策が重要 県全体として観光と歴史・文化と融合させた取組をしてほしい 文化財保護と文化観光の良好なバランスが必要 （全てが観光資源になるとは限らないが、）歴史遺産は点として存在するのでは意義がなく、面的に歴史の変容を追求することが必要 福井の場合、観光客は、東京・上野の博物館エリアに代表される、いわゆる「文化観光」で来福しているわけではなく、地域そのものを見に来るといふ動機の方が強い。 「文化観光」に固執することで、他の観光スポットとの複合性や連続性を損ねないようにすべき。 																																																												

対象 [参加者・回答者数]	県内で活動するデザイナー・クリエイター [9名]	音楽、図工美術を専門領域とする教員 [9名]	県内アートプロジェクト実施団体 [10団体]																																																			
活動の中で感じる課題	<ul style="list-style-type: none"> デザインを単に外見を整える方法としか捉えておらず、課題解決におけるデザインの必要性を理解していないクライアント(企業等)が多い。 クリエイティブな人材を育成する機関や大学、専門学校が少なく、人材雇用が難しい。 デザイナー、クリエイターと行政、企業、街や人をつなぐ接点がない。 県内デザイナーの作品が応募者に対するベネフィットの高い県外のコンペに流れている。 	<p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> 週に1時間しかない限られた時間の中で音楽の見方・考え方や技能を身に着けさせることは大変難しい。(中学) 主な音楽視聴の場が動画視聴となっているため、子ども達の触れる音楽に広がりや多様性がない。(中学) 小学校から中学校への学びの連続性がない。(中学) <p>【図工・美術】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業時間が少ない中で求められる内容が多いため、題材を「こなす」授業になってしまい、子ども達が芸術や文化に触れる内容になり得ていない。 学校の中で直接本物に触れる機会が少ない。(小学校) 絵を描くことや創作が好き、鑑賞が好きという生徒は一定数いるが、美術を職業にしようと考えている生徒は非常に少ない。身近に美術で活動している人が少ないこともあり、アーティストという存在を遠く感じているのではないかと思う。(高校) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化として注目されるのは「一乗谷」と「恐竜」ばかりで、文化財の保護施策が十分でない。 団体発足当初からのメンバーで活動しており、新規メンバーの加入がなく、今後の活動を担う人材がいない。 奨励金がもらえるのは大変難しいが、申請額よりも少ない額しかもらえない場合があり、経済的負担が大きい。 																																																			
必要な行政からの支援	<table border="1" data-bbox="415 756 1157 1029"> <thead> <tr> <th>選択肢</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動のPR、情報発信の支援</td> <td>3</td> <td>33.3</td> </tr> <tr> <td>連携・協働のためのネットワーキングやマッチング</td> <td>7</td> <td>77.8</td> </tr> <tr> <td>技術向上、ノウハウ習得などの機会提供</td> <td>2</td> <td>22.2</td> </tr> <tr> <td>若手デザイナー、クリエイターの育成</td> <td>4</td> <td>44.4</td> </tr> <tr> <td>特にない</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3</td> <td>33.3</td> </tr> </tbody> </table>	選択肢	回答数(人)	割合(%)	活動のPR、情報発信の支援	3	33.3	連携・協働のためのネットワーキングやマッチング	7	77.8	技術向上、ノウハウ習得などの機会提供	2	22.2	若手デザイナー、クリエイターの育成	4	44.4	特にない	0	0.0	その他	3	33.3	—	<table border="1" data-bbox="2033 703 2760 1079"> <thead> <tr> <th>選択肢</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表の場の確保</td> <td>1</td> <td>10.0</td> </tr> <tr> <td>資金面での支援</td> <td>7</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>活動のPR、情報発信の支援</td> <td>7</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>連携・協働の場でのマッチング</td> <td>2</td> <td>20.0</td> </tr> <tr> <td>技術向上、ノウハウ習得などの機会提供</td> <td>1</td> <td>10.0</td> </tr> <tr> <td>練習の場の確保</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>プロデューサーの紹介など事業企画の支援</td> <td>1</td> <td>10.0</td> </tr> <tr> <td>特にない</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2</td> <td>20.0</td> </tr> </tbody> </table>	選択肢	回答数(人)	割合(%)	発表の場の確保	1	10.0	資金面での支援	7	70.0	活動のPR、情報発信の支援	7	70.0	連携・協働の場でのマッチング	2	20.0	技術向上、ノウハウ習得などの機会提供	1	10.0	練習の場の確保	0	0.0	プロデューサーの紹介など事業企画の支援	1	10.0	特にない	0	0.0	その他	2	20.0
選択肢	回答数(人)	割合(%)																																																				
活動のPR、情報発信の支援	3	33.3																																																				
連携・協働のためのネットワーキングやマッチング	7	77.8																																																				
技術向上、ノウハウ習得などの機会提供	2	22.2																																																				
若手デザイナー、クリエイターの育成	4	44.4																																																				
特にない	0	0.0																																																				
その他	3	33.3																																																				
選択肢	回答数(人)	割合(%)																																																				
発表の場の確保	1	10.0																																																				
資金面での支援	7	70.0																																																				
活動のPR、情報発信の支援	7	70.0																																																				
連携・協働の場でのマッチング	2	20.0																																																				
技術向上、ノウハウ習得などの機会提供	1	10.0																																																				
練習の場の確保	0	0.0																																																				
プロデューサーの紹介など事業企画の支援	1	10.0																																																				
特にない	0	0.0																																																				
その他	2	20.0																																																				
支援の具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> 社会課題を解決する人材としてのデザイナーの育成(継続的な研修の実施など) デザイン事務所と学生のネットワーク構築を促進するための人材交流拠点の整備、県・デザイナー協会・大学等との連携協定締結 事業者がデザインの必要性を学ぶ機会の提供 デザイナーと企業をつなぐマッチングの機会や場所を増やし、料金を開示するなどのクリアで安心できる仕組みをつくること デザインを重要な政策として位置づけ、伝統工芸から先端技術まで、産地が集積している土地のメリットを生かす方針を県がしっかりと打ち出すこと。 	<p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> 演奏家が奏でる生の音楽に触れる機会の提供。(その内容が教科書の内容に準じているとさらによい。)(中学校) アーティストと連携する機会の提供(中学校) <p>【図工・美術】</p> <ul style="list-style-type: none"> 付き添いの保護者も含め、美術館や博物館、コンサートの無料化。 1回きりの鑑賞活動や出前授業だけでなく、継続的・長期的な支援。 子どもが興味を示すような図画工作の出前講座や絵の巡回展などの開催。(小学校) 本物に触れられる機会の情報を一括して入手できるような仕組みの構築。(中学校) 	<ul style="list-style-type: none"> 県の広報媒体(テレビ、新聞、SNS等)を活用した情報発信の支援 助成金の確保 新規事業に比べて継続事業を対象とした補助金が少ない。継続するほど運営は大変になっていくので(スタッフの確保、モチベーション等)、ぜひ継続事業を対象とした補助金を検討してほしい。 県庁に文化財専門官を配置(文化財指定のための調査や保存のための修理事業などを積極的に推進) 大きな作品展を開催するときに、相談できるプロデューサー等を紹介してほしい。 . 																																																			
プラン骨子案について(意見・要望)	<ul style="list-style-type: none"> 総花的で文化すべてを等価に扱っているが、人口減少の局面では戦略性が重要。福井の産地としての伝統や底力を活かすデザインに的を絞るべき。 「鑑賞する力」を養うことができれば演じたい、描きたい人が増えると思う。 企業が文化芸術に投資することが社会課題の解決につながるということへの理解促進を早急に図るべき。 福井県には芸術・美術系の大学がないため、アーティスト人材創出や若手育成は難しいが、長期的な視点で捉えて人材育成に特に注力してほしい。 文化芸術フォーラムのような、文化芸術に携わる団体や行政のネットワークづくり、意見交換の場が必要。 デザイナーやアーティストが個展や制作に使える場所が欲しい。 パブリックコメントは令和6年にしてはどうか。現在のままでは県民の声を拾わないスケジュールだと感じる。 	<p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術館、博物館、音楽堂をもっと身近に感じてもらうことの大切さに共感する。誰もが敷居を感じることなく、文化芸術を楽しめるようにしていく必要がある。(中学校) 若手アーティストを支援するプログラムがあることを初めて知った。学校現場でもそのような取り組みについて紹介したい。(中学校) <p>【図工・美術】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築・建造物についても福井ならではの文化として取り扱うべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般県民にもわかりやすい内容にすべき。カタカナ用語が多すぎる。 地域において文化振興事業に参加する人が少ない。若い人は忙しいので、比較的ゆとりのある高齢者をどう巻き込んでいくかを考えるべき。 県内の貴重な古文書が散逸している現状がある。資料のデジタル化や活字化を積極的に進めるべき。 音楽関係の活動をしているが、他の分野の活動者とながりを作れる機会があるとよい。 若い人の活動への参加がポイントになるので、新しい活動がいろいろなところで発生するような雰囲気づくりが重要。 																																																			

